

## 「創立 90 周年記念講演会」（テーマ：地域貢献）報告

### 『地域を元気にする仕事：コミュニティデザイン ～高校生への期待～』

秦野高等学校長 神戸秀巳

秦野高等学校は、教育の柱として、「文武両道」（本気で「二兎を追う」教育の追求）、「凡事徹底」（あたりまえのことがあたりまえにできる人間の育成）、「地域貢献」（地域との連携を強化した地域の教育力向上と地域活性化の推進）に力を注いでいます。

「地域の活性化」については、高校生や若い世代の人たちの積極的な関わりによって、地域を元気にする動きを創り出すことができると考えています。実際に、全国を見渡すと、「地域課題解決型のキャリア教育」に取り組む高等学校が増えてきました。

昨年来、PTAの協力もあり、「地域にある課題を地域の人たち自身が発見し、それを自分たちの手で解決していけるようサポートする」コミュニティデザインについて学ぶ機会を探していたところ、東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科のご協力が得られることになり、生徒を主な対象に、教職員や保護者、地域関係者も参加可能な講演会を実施できる運びとなりました。学校・同窓会・PTAからなる「実行委員会」の後押しにより、関係者の皆様にご案内し、「創立 90 周年記念講演会」として、秦野高等学校の体育館を使用して実施しました。

講師については、大学と事前のやり取りを重ねた結果、素晴らしい講師をご紹介いただきました。

日時：平成 28 年 10 月 21 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

講師：東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科 醍醐(だいご)孝典准教授

#### 【講師プロフィール】

大学院時代から兵庫県姫路市家島地区のまちづくりに関わり、同地区で「探られる島」プロジェクト、ゲストハウスプロジェクトなどを展開。兵庫県農林水産部では森林保全計画の策定等に従事。財団法人京都市景観・まちづくりセンターでは京都市内各地の住民主体のまちづくりや地区計画策定のサポート、まちづくりに関するイベントやワークショップの企画・運営を担当。NPO 法人ソーシャルデザインラボ理事長。総務省地域力創造アドバイザー。



山形市から「つばさ」経由で来校の講師



参加生徒は 1・2 学年（720 名）



#### これからの社会で求められる人材

- ① 自分で自分のやるべきことを発見できる
- ② 常に学び続け、成長し続けられる
- ③ チームで目標を達成できる
- ④ 自分ならではの人生の意味を持っている

#### 講演の概要

##### ◆日本は「課題先進国」 これからの時代の「働く」とは？

世界の先進国の中でも、日本は急速に人口減少、少子高齢化が進み、社会構造が変化しています。テクノロジーやグローバル化が進み、エネルギー環境も日々変化する新しい社会の中で、「未来をどう生きるか？」という大きな課題が私たちに課せられています。これからは、社会が求める新しい仕事を「つくる＝デザインする」ことが必要となり、自分たち自身が「働く」ことに意味を見出していかなければなりません。

「これからの社会で求められる人材のポイント」を、上に4つ掲げました。課題先進国である日本の中で最先端となるのは、人口が先んじて減少する離島や地方です。そこで情報を収集して発信する力、新しい時代の課題を発見し解決する力が必要であり、二つの“そうぞう力（想像力・創造力）”が求められます。時代の変化に対応するためには、これまでの既成概念にとらわれない「発想の逆転」が必要です。

##### ◆コミュニティデザインという仕事

「コミュニティデザイン」の仕事は「地域のまちづくり」のお手伝いをすることであり、人と人とのつながりのように、目に見えないものをデザインすることです。今回は課題先進地域である瀬戸内海の家島でのフィールドワークが紹介されました。講師が所属する

「スタジオエル」のメンバーが島に入って住民と共に生活して話を聴き、島外の若者の視点で、島の特産品など今あるものを活用して都市部と交流する観光開発の提案などを行っていました。島という一つのコミュニティの中で、プロフェッショナルである「スタジオエル」のメンバーと住民の双方からの視点で、変えるデザインと変えないデザインの選択が行われていました。コミュニティデザインにおいては、地域の人々とのコミュニケーションによって課題を発見し、地域に住む人々が自らチームを作って課題を解決できるよう支援することが非常に重要となるということです。

#### ◆秦野高等学校の生徒へのエール

講師の醍醐孝典准教授から、秦野高等学校の生徒たちへのエールとして、『東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科のグランドルール「プランド ハブン スタンス」（計画された偶然性）の要素である「好奇心・持続性・楽観性・柔軟性・冒険心」を大切に、これから来る「新しいことが生み出せる、ものすごく面白い時代」を牽引するリーダーとして秦野高等学校の生徒たちが活躍することを期待している』との言葉をいただきました。

ほとんどの生徒にとって初めて耳にする今回の講演内容は、「新しい‘未来’を牽引する人材」をめざす生徒たちの心に火をつけるものとなったのではないのでしょうか。

#### 【生徒たちの感想（ごく一部）】

■「チームビルディング」といった自分の好きな分野の話だったので、興味を持って聞くことができました。これからの時代は暗い世の中ではありますが、逆に自分たちで社会実験をしながら、今この世にない社会を造っていかなきゃいけないんだと思いました。“コミュニティデザイン”というのが、将来誰もが知る仕事になると思いますが、自分も何かお手伝いができたらなと思います。

■近年、過疎化、過疎化が進み、シャッター商店街など問題になっていることは気になっていました。講師の方のお話を聞いて、自分も将来まちに貢献したい、まちを活性化することに協力したいと思いました。地域の方とのコミュニケーションをとるといふことの大切さ、積極的に行動することの大切さを学びました。

■今まで、「デザイン」というと、一人で机に向かって考える、というイメージが大きかったのですが、今回のお話を聞いて、人と人との関わりの中での「デザイン」もあることに驚きました。また、自分の地元の人たちとももっとふれ合い、自分の住んでいるところの良さをもっと見つけたい、と思いました。私はまだ将来就きたい職業も進みたい分野も定まっていません。でも、今回の講話で、将来は人と人との関わりを大切にできる道に進みたいなと思いました。

■コミュニティデザインとして、人口が少ない地域へ協力ということで、私の住んでいる地域も高齢化が進んでいるので、そういった活動は嬉しいと思いました。

■ふだんなかなか聞くことのできないお話を聞いて、楽しかったです！小さいことでも、少しずつやれば、こんなに変わるんだなあと思いました。私も機会があれば、ぜひやってみたいです。

## 【神戸より】

数日前、私は埼玉県川口市で、ある会社の社長と、たまたまお会いする機会がありました。その方はとても大きな志を持って行動されていて、お話を伺っていると、「宇宙」を感じました。そして、びっくりしたことに、その方と、私の複数の知り合いが全国規模で「つながって」いました。

その方は、『「何をつくっている会社ですか？」と聞かれたら、「物語を創る会社です」と答えるようになりました。』とお答えになっていました。プラスのエネルギーにあふれていました。

今回の講師の話もそうですが、すべて「未来をどう生きるか？」につながっています。秦野高等学校も私もぜひ見習いたいと思います。

いつも繰り返して言っている言葉ですが、前進を続けるために、心がけたいものです。

- ◆視野を広げると、面白い世界が見える。
- ◆やらされ感では、人は動かない。しかし、面白いと感じたとき、人は自ら動く。
- ◆できない理由を考えるより、できる方法を考える。

吉田松陰（1830-1859） 江戸幕末の思想家、教育者  
『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、  
実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。』